

海 峰

氷見市立海峰小学校 学校だより№10

令和5年3月13日発行



学校長 西 裕之

地域の方の思いを

ランチルームの後ろに花壇がある。昨年までは花苗を植えていたが、どうも子供たちが見る機会が少ない。その上、花壇の世話は雑草取りなどの手間がかかる。児童数も減少し、なかなか手が回らない現状を考え、今年度から玄関前のプランターに花苗を植えることにした。当然のことながら後ろの花壇には雑草が生い茂った。

10月のある日、畑周りの除草作業をしていると、いつも庭木の剪定をさせていただいている地域の方から「花壇を使わないなら、チューリップでも植えてみたらどうか。いくらでも手伝うぞ」と言われた。手伝っていただけるのは有り難いが、正直なところ「後ろの花壇は見る機会が少ないからな」とあまり乗り気ではなかった。でも結局、植えることになった。（正しくは「なってしまった」である）

耕運機で耕し、雑草を取り除いてから堆肥を混ぜてマルチを張り、畑作りを行った。ここまでは大人の仕事である。11月、地域の方と一緒に全校児童で球根植えを行った。あとは4月に咲くチューリップを楽しむに…と思っていた。

ところがである。その地域の方は、花壇の周りにベンチを作りたいと言われた。材料は特に準備しなくてもいいから、子供一人一人に簡単なイラストを描かせてほしいというのだ。子供たちに用紙を渡し、一人一枚、魚・動物・乗り物など自由に絵を描き、地域の方に渡した。

2月、出来上がったベンチを見て私は驚いた。子供たちが描いたイラスト一つ一つが、地域の方の手でペンキを使って描かれていたのである。できるだけ子供たちが描いた絵に似せようと書き写された絵であった。たまたま帰り道に通りかかった児童が「あっ、僕の描いたサメだ」と嬉しそうに話してくれた。

出来上がったベンチは3つ。3月3日に地域の方と6年生と一緒に運び、花壇横に設置した。地域の方は、子供たちがこのベンチに座り、きれいに咲いたチューリップを見て嬉しそうにしている光景を随分前から想像していたに違いない。

昨今、いろいろなことが合理的になり、教育に携わる私たちの仕事も、費用対効果ならぬ時間対効果をついつい考えてしまうことが多い。時間をかけた分、どれだけの教育的効果があるのだろうか。時間は限られているからその考えも大切である。しかし、教育の効果は全てが目に見えて現れることばかりでなく、子供の心にじわじわと浸透していくことも多くある。5年先、10年先に、思いやりであったり優しさであったり、その子供の人格の形成に関わることを日常の生活から学んでいく。だからこそ、学校は、子供が自ら体験したり、人と関わったりする機会の充実を図らなければならない。

子供たちが、地域の方の思いが詰まった手作りのベンチに座り、きれいに咲いたチューリップを眺める。その経験で養われる心の豊かさは、決して疎かにしてはいけない教育である。恥ずかしながら、私自身の考えを見直すとともに、今一度、本校の教育を支えていただいている地域の方の思いを大切にしなければならないと感じている。



地域の方とベンチを設置する6年生



チューリップ花壇横に設置されたベンチ

令和4年度もうすぐ終わりになります。1年間、本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。令和5年度もどうぞよろしくお願いいたします。